

大日本スクリーン製造株式会社

2012年3月期 第3四半期 決算説明会

2012年2月6日

専務取締役 CFO 領 内 修

本日のアジェンダ

2012年3月期 第3四半期連結業績 結果と分析

事業状況と今後の取り組みについて

2012年3月期 通期連結業績予想

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・フラットパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで表記しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

3Q 連結業績結果

2012年3月期 3Q 連結業績結果

(単位：億円)	2011年3月期					2012年3月期				
	実績					実績				前年同期比
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q	1Q	2Q	3Q	累計	累計
売上高	514	589	662	1,766	783	645	584	502	1,732	▲ 33
SE	327	365	495	1,187	554	482	361	289	1,133	▲ 54
FE	82	92	61	236	90	51	93	104	248	12
MP	103	130	103	337	135	110	128	106	344	7
印刷関連機器 (MT)	89	106	92	288	116	95	114	98	307	19
プリント基板関連機器 (PE)	13	23	11	48	19	14	14	7	36	▲ 11
その他(外部売上のみ)	1	1	1	4	1	1	1	1	4	0
営業利益	46	63	75	186	81	62	27	6	96	▲ 90
SE	49	61	88	199	81	68	24	5	98	▲ 101
FE	6	0	▲ 5	0	▲ 0	▲ 7	▲ 3	4	▲ 5	▲ 6
MP	▲ 9	1	▲ 8	▲ 15	2	2	8	0	11	26
その他および調整額	▲ 0	0	1	1	▲ 2	▲ 1	▲ 1	▲ 4	▲ 7	▲ 9
経常利益	46	63	74	184	80	60	27	2	90	▲ 93
純利益	38	57	77	173	83	47	18	▲ 39	25	▲ 147

3Q特殊要因：

- ・減損損失……28億円
- ・投資有価証券評価損……4億円
- ・税制改正に伴う繰延税金資産の一部取崩……4億円

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

2012年3月期 3Q 連結業績分析

売上高

2Q実績 584億円

3Q実績502億円（前四半期比：82億円減少）

（単位：億円）

セグメント	2Q実績	3Q実績	差額	差異のポイント
SE	361	289	▲72	ファンドリー向けは増加したが、メモリーが大幅減少 バッチ式洗浄装置が大幅減少
FE	93	104	11	大型用装置は減少したが、中小型用が増加
MP	128	106	▲21	
MT	114	98	▲15	季節変動要因に加え、円高の影響により減少 北米でのPODの堅調継続
PE	14	7	▲6	電子部品の在庫調整の遅れにより、設備投資は全般的に低調

営業利益

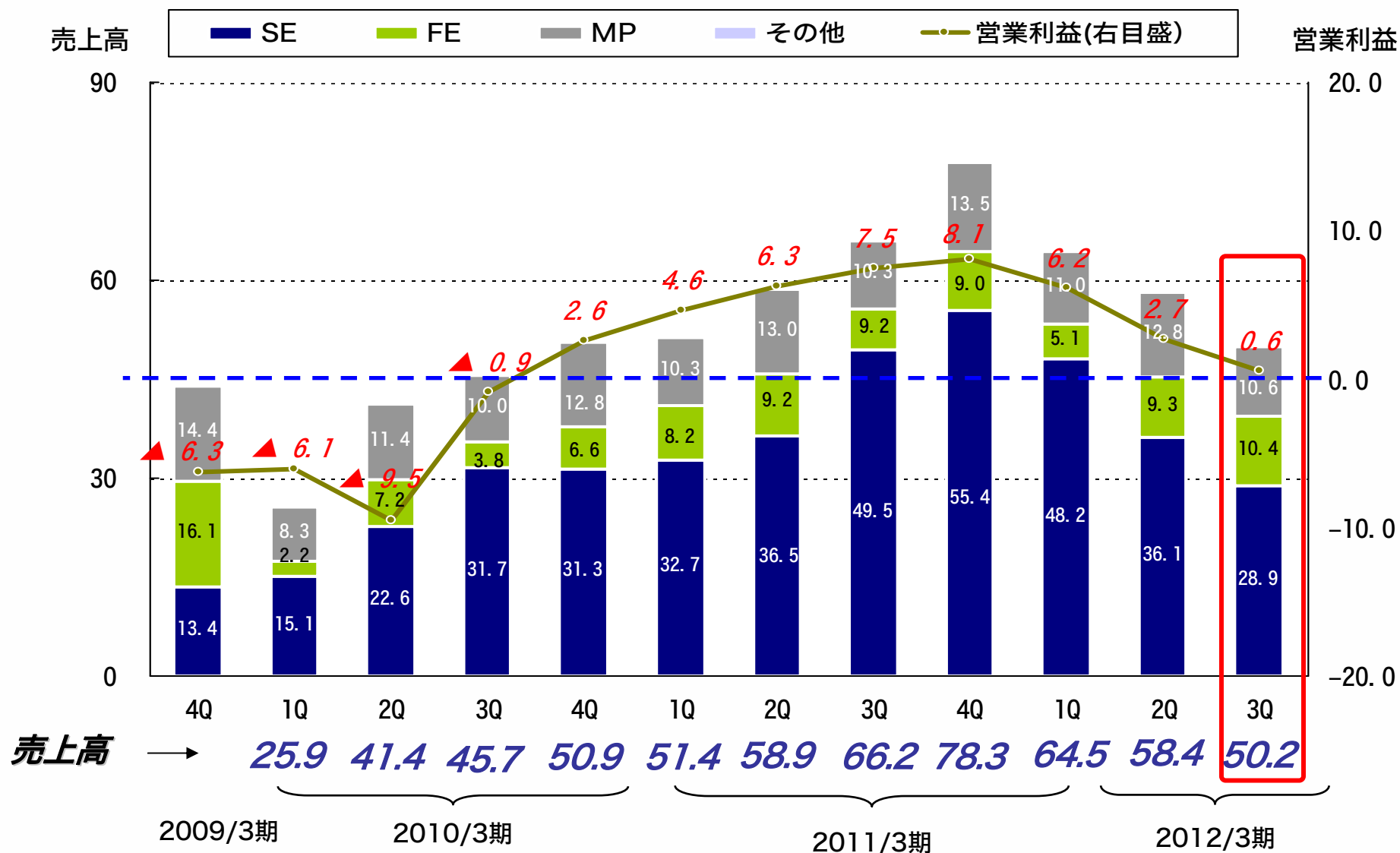
2Q実績 27億円

3Q実績6億円（前四半期比：21億円減少）

（単位：億円）

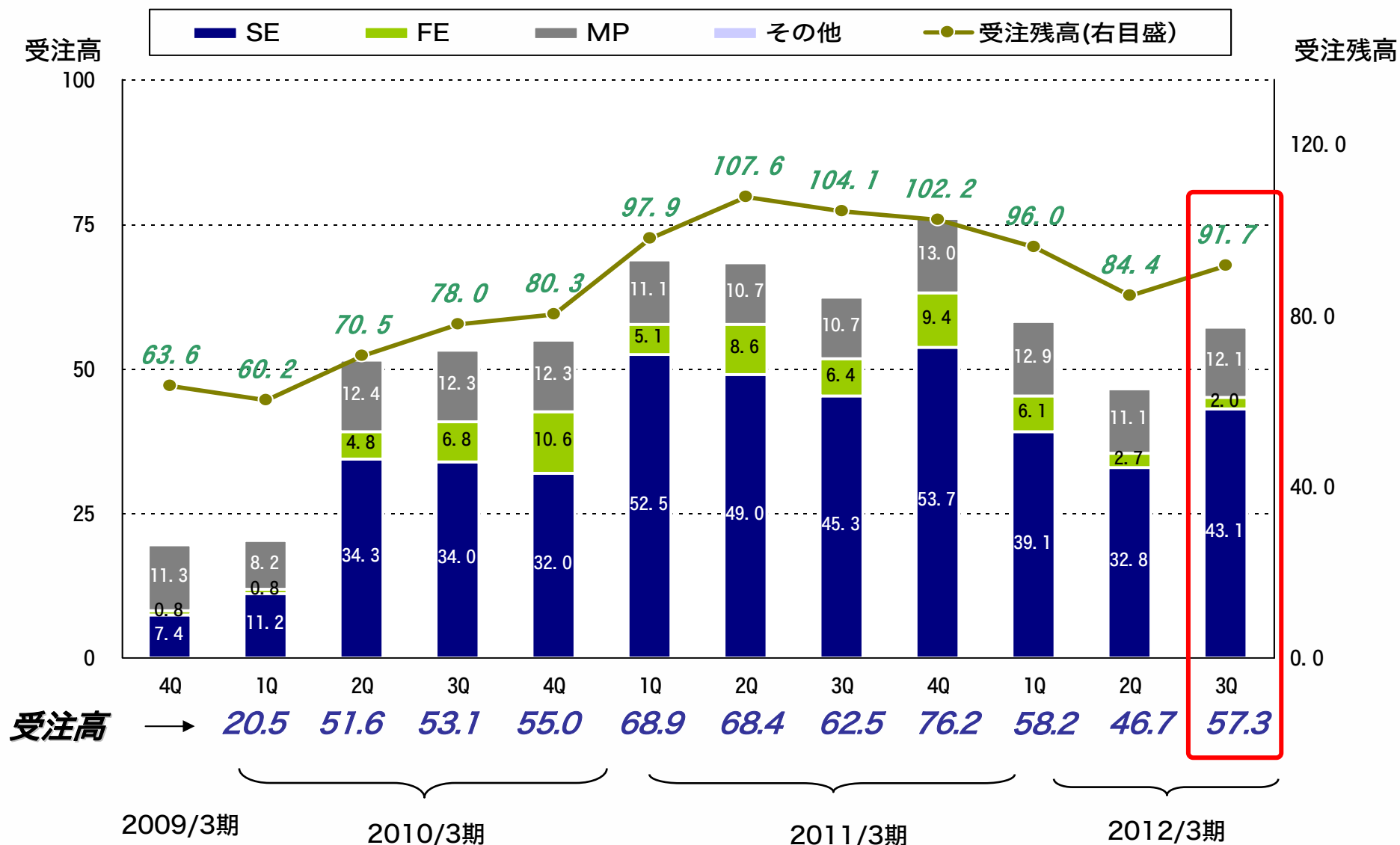
セグメント	2Q実績	3Q実績	差額	差異のポイント
SE	24	5	▲19	売上減少による減益ではあったが、概ね想定通り
FE	▲3	4	8	売上回復に加え、コスト削減により黒字転換
MP	8	0	▲7	売上減少、円高にもかかわらず、営業利益を確保

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

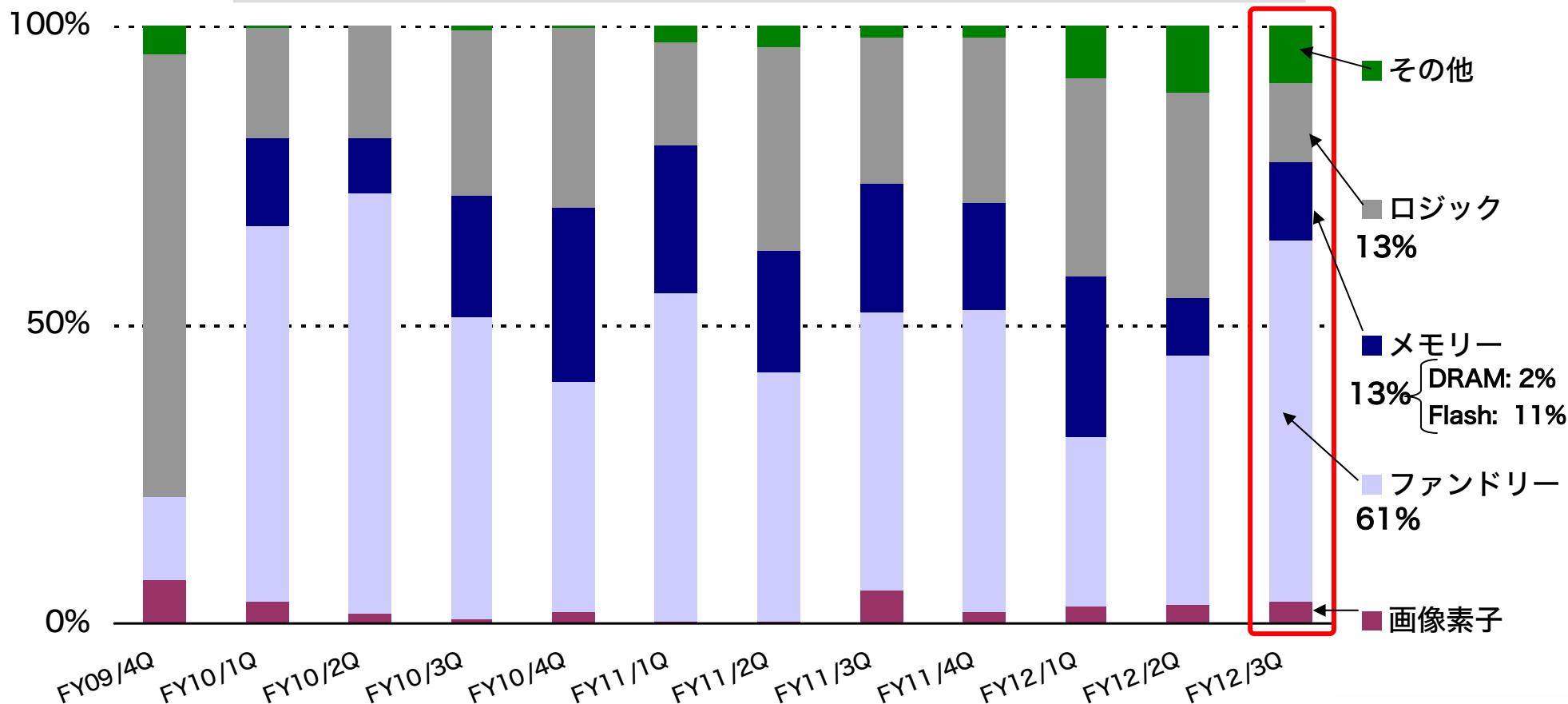
受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

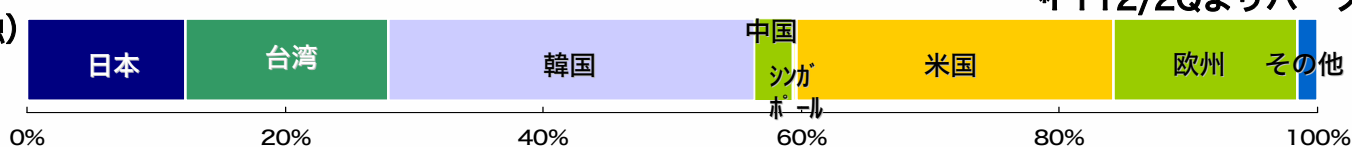
<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

➤3Q受注高 : 431 億円 (連結)



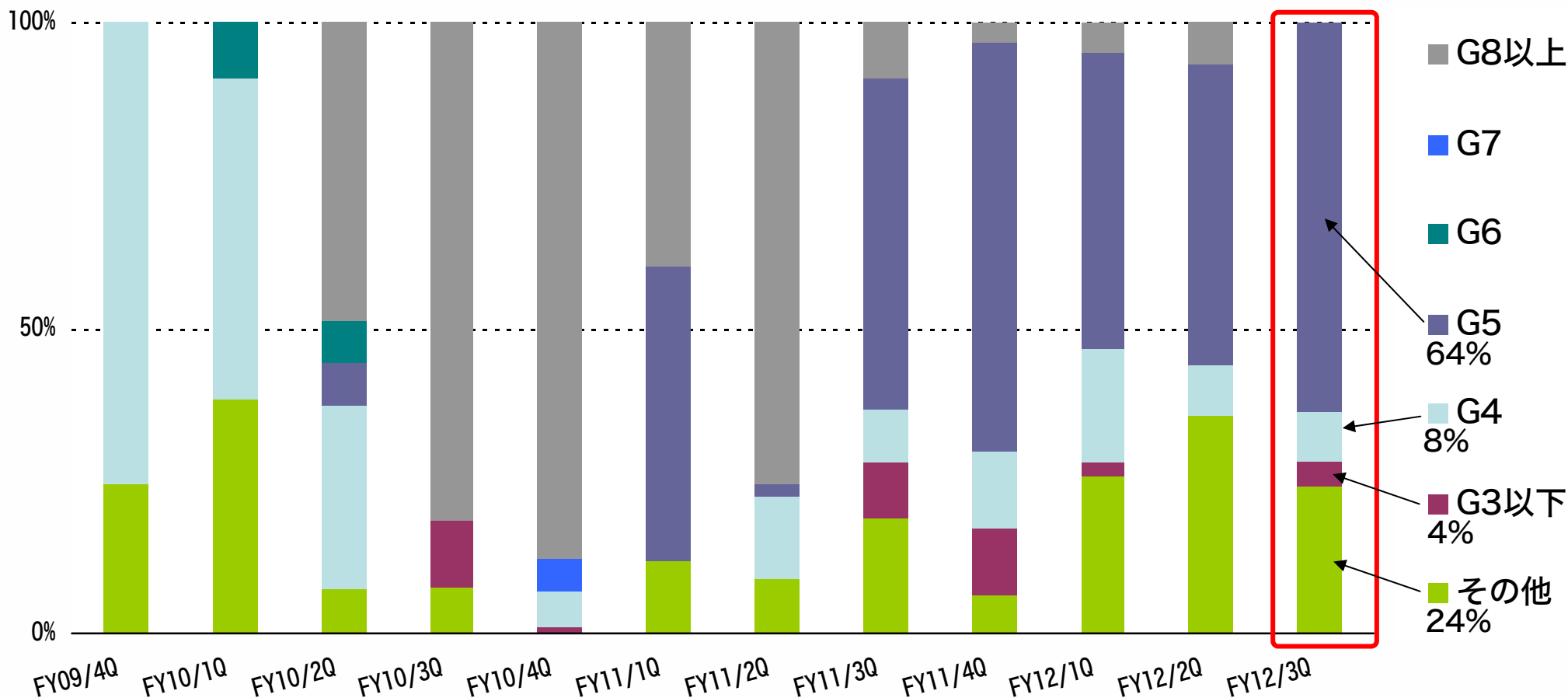
*FY12/2Qよりパーツをその他に含めている。

地域別受注高 (単独)
2012年3月期
3Q 実績

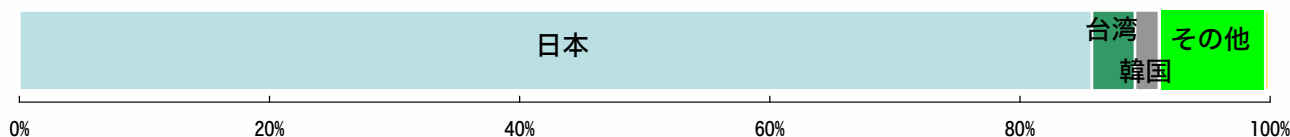


<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

➤3Q受注高 : 20 億円 (連結)



地域別受注高 (単独)
2012年3月期
3Q 実績

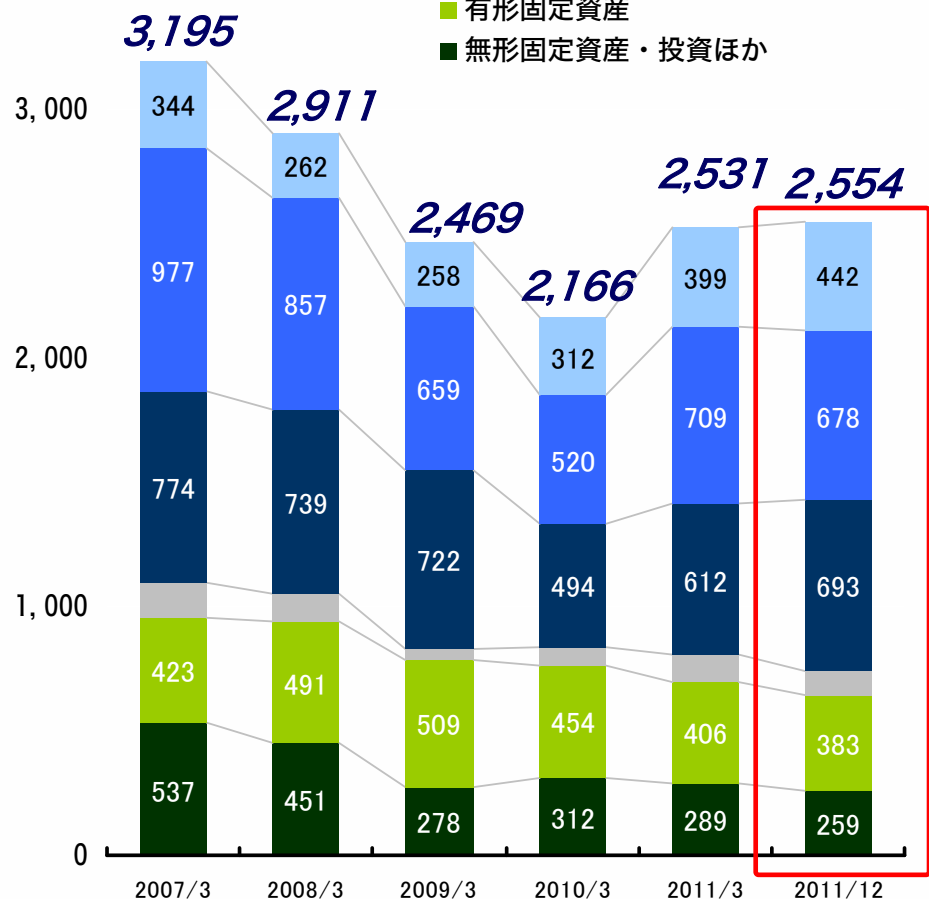


貸借対照表 (連結)

資産

(億円)

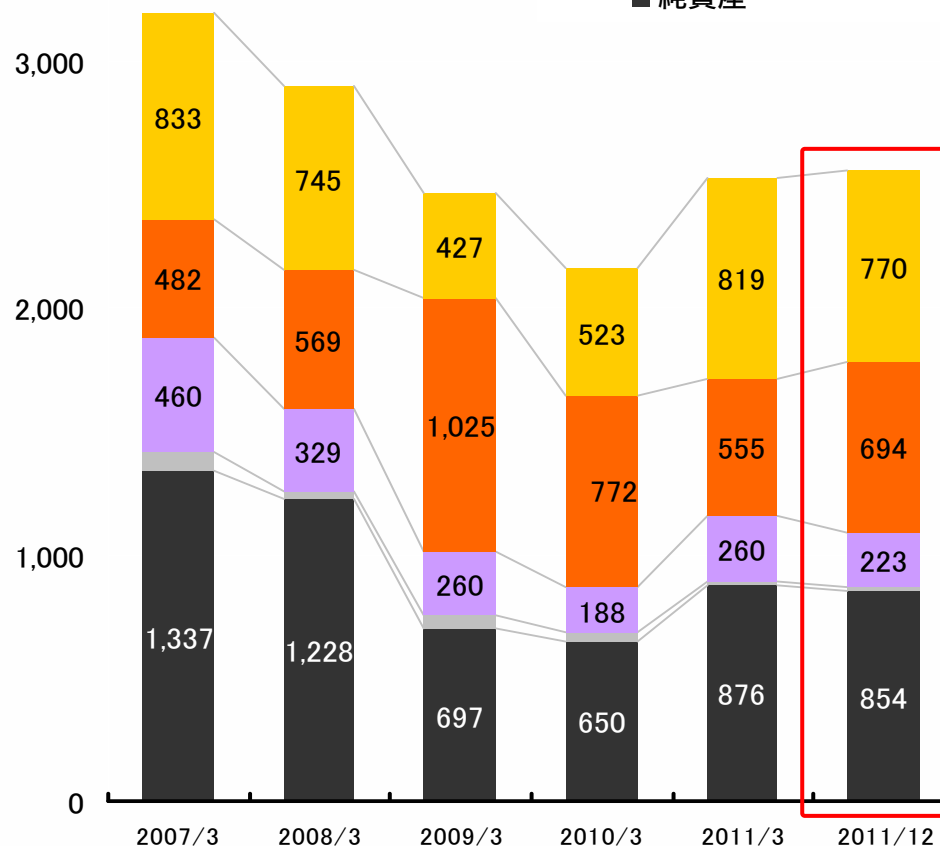
- 現金・預金
- 受取手形・売掛金
- 棚卸資産
- その他の流動資産
- 有形固定資産
- 無形固定資産・投資ほか



負債および純資産

(億円)

- 支払手形・買掛金
- 有利子負債
- その他流動負債
- その他固定負債
- 純資産

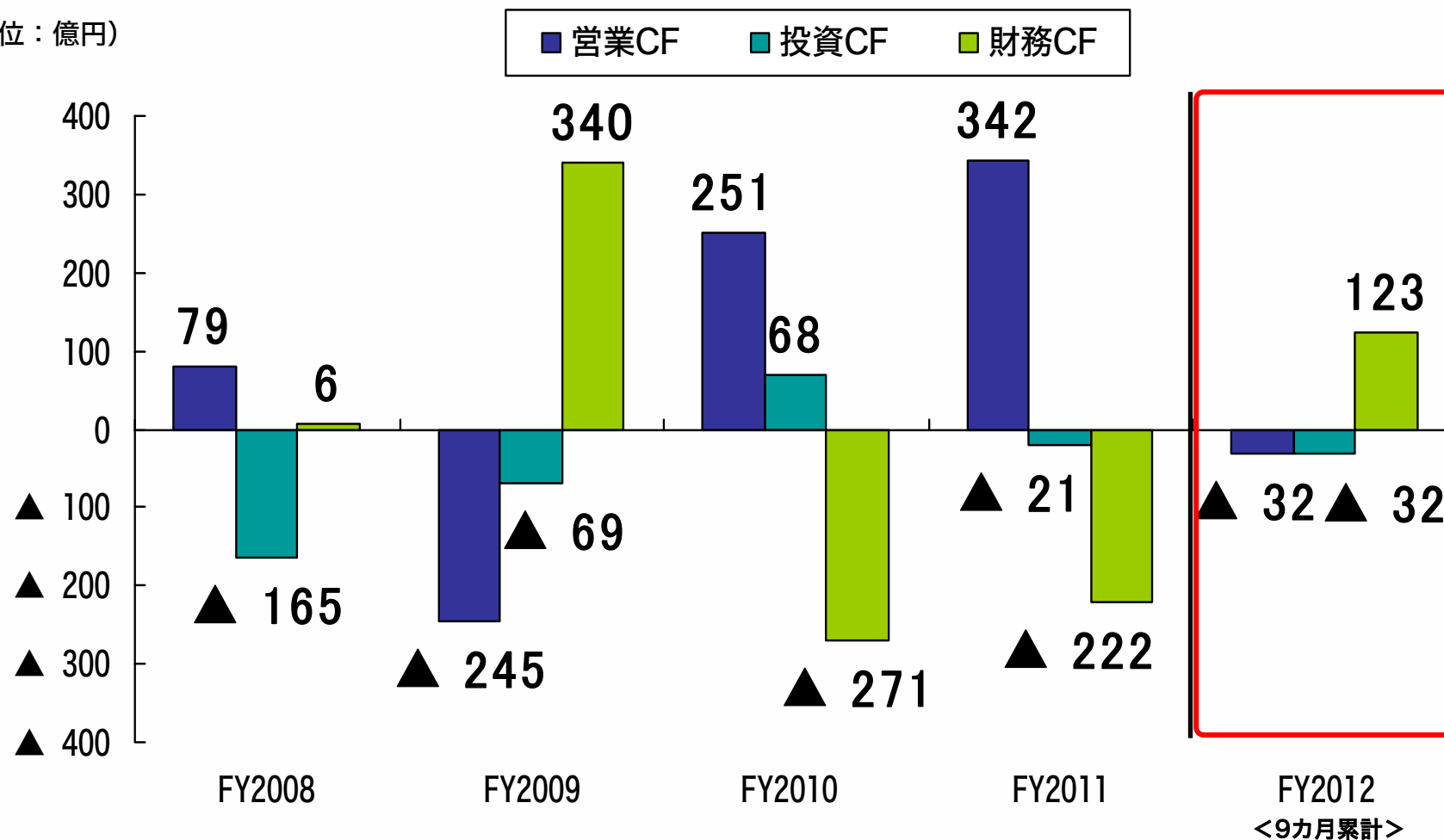


自己資本比率 34.4% (2011/3) → **33.3%** (2011/12)

キャッシュ・フロー（連結）

フリーキャッシュ・フロー：▲65 億円

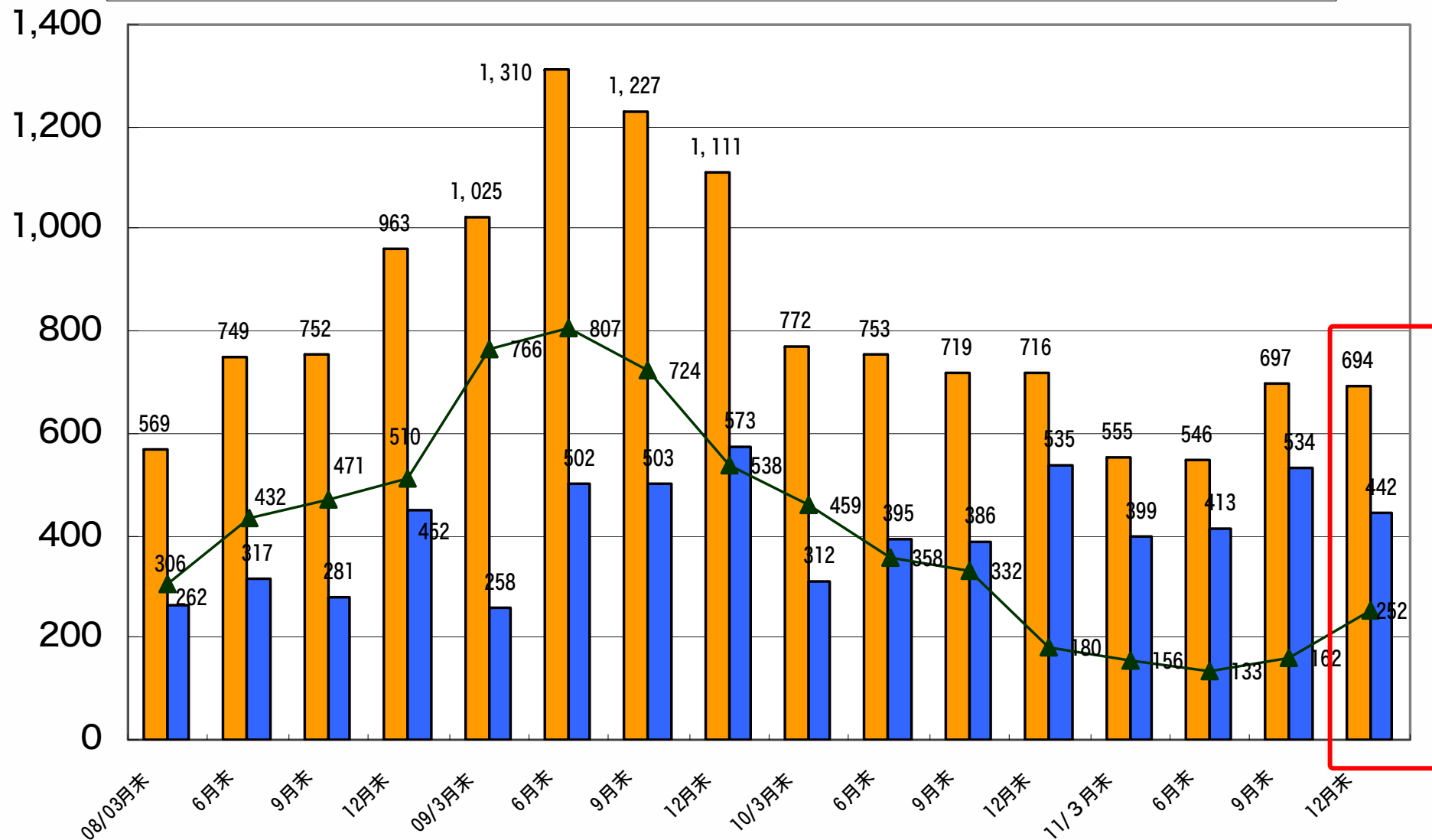
(単位：億円)



有利子負債推移(連結)

(単位：億円)

■ 有利子負債
 ■ 現金及び預金
 ▲ ネット有利子負債



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

事業関連

SE

3Q総括

- 業績は想定通り
- 受注は、ファンドリーの投資が活発化し、ガイドラインを上回る
- スピンスクラバー新製品「SS-3200」をリリース、シェアアップを目指す
- マスクレス直接露光装置「DW-3000」をリリース、後工程に進出

4Qの展望

- 3Qに積み上がった受注残を背景に、4Qは売上回復を見込む
- 微細化、先端投資が牽引し、4Q受注も堅調維持を想定

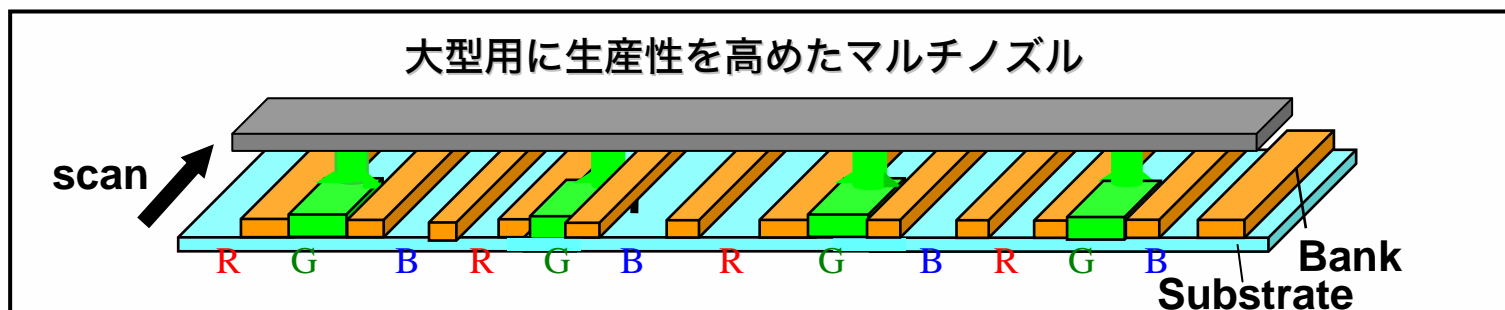
FE

3Q総括

- 売上は堅調であるが、液晶ディスプレイ用新規商談は低調
- 有機EL用ノズルプリンター実験機を出荷

4Qの展望

- 中小型用の投資は継続
- 国内、韓国引き合い状況より受注回復を期待
- 有機ELテレビ向けにノズルプリンターの受注獲得を目指す



MP

3Q総括

- 【MT】
- CTPは新興国向け販売は堅調に推移
 - 中国生産子会社（杭州）へのCTP生産移管は計画通り進行
 - PODは北米向け堅調継続、先進国以外でも市場拡大の動き
 - 日本、欧州、北米で、PODショールームを整備
- 【PE】
- 検査装置は計画通りに推移したが、設備投資は総じて低調

4Qの展望

- 【MT】
- PODの市場拡大に備え、販売体制を強化
 - 「drupa2012」(5/3-16、独/デュッセルドルフ)に向け新製品開発に注力
- 【PE】
- PCB用直接描画装置の拡販。受注拡大を目指す

半導体分野

設備投資の一時的調整が想定されるが、大きな落ち込みではない。年後半には回復を想定。通年設備投資全体としては2011年（暦年）比▲5%～▲10%と予想。

FPD分野

有機EL向け投資は積極化。液晶は中小型用投資は継続されるが、テレビ用投資が低調となり、設備投資全体では2011年（暦年）比▲40%程度と予想。

印刷機器分野

CTPは、単価下落を台数増加が吸収し、微増。
PODは先進国での普及に加え、新興国でも市場拡大。

通期連結業績予想

2012年3月期 通期連結業績予想

想定為替レート: 1USD=75JPY, 1EUR=100JPY

(単位: 億円)

(単位: 億円)	2012年3月期										2011年 3月期 実績		
	上期		下期				通期						
	実績		11/7予想		今回予想		11/7予想		今回予想				
売上高	1,230		1,260		1,260		2,490		2,490		2,549		
SE	844		810		810		1,654		1,654		1,742		
FE	144		191		191		335		335		327		
MP	MT	238	209	256	222	256	222	495	432	495	432	473	404
	PE												
その他(外部売上のみ)	3		3		3		6		6		6		
営業利益	90		50		50		140		140		268		
経常利益	88		42		42		130		130		265		
当期純利益	65		34		0		100		65		256		

年間配当金予想: 1株当たり配当金5円(期末)・・・変更なし

マクロ経済の見通しが不透明な中、

<SEセグメント>

- ・ 先端投資を着実に受注に結びつけ、収益確保する
- ・ 既存製品のシェアアップと事業領域拡大を図る

<FEセグメント>

- ・ 既存事業での収益改善
- ・ 有機ELテレビ用ノズルプリンターの実用化を進める

<MPセグメント>

- ・ CTPのコスト削減を進める
- ・ POD市場の拡大に合わせ、販売体制を強化

中期経営計画「*NextStage70*」の達成を目指す